

派遣審判報告

1. 報告者 飯塚 貴行（北相）
2. 大会名 令和3年度 全国高等学校総合体育大会 バスケットボール競技大会（女子）
3. 大会期間 令和3年8月10日（火）～8月14日（土）
4. 会場 新潟県/東総合スポーツセンター、秋葉区総合体育館、亀田総合体育館
5. 審判動向 8月6日（金）：研修会（ウェブミーティング）
6. 担当割当 8月10日（火）：大会1日目
8月11日（水）：大会2日目

7. 報告

8月6日（金）

<研修会>

【講義①】

講師：宇田川 貴生氏（日本協会 審判委員長/インテグリティ委員長）

1. コロナ対応

- ネットにおける誹謗中傷が問題になった
- 事前の対応が大事
- 感染症対策の徹底、また体調不良、不安がある場合はキャンセルも
※連絡を徹底すること

2. インテグリティ

- テクニカルファウル（TF）に関して、感情的にならずにコールが必要
- 特に無観客であり、コーチの声がよく聞こえてしまうし、ネット配信もされる
- 先達て行われた男子のインターハイ（IH）でもコーチのTFがあったことが報告された

3. 抗議の取り扱い

- 愛知県大会の事例
ファウル4回で退場になった
スコアシートの記載ミスで出場できない選手がいた
（試合中にミスが発覚し、第2クォーター（2Q）から出場した）
- 基本的な考え方として、抗議は採用しない
- 重大なトラブル防止のために…
 - ①審判員のレベルアップ
 - ②テーブルオフィシャル（TO）のレベルアップ
 - ③主催団体として取り組むべき対策
 - ④チーム（コーチ）として取り組むべき対策
- しかし、審判の責任は重要
 - ①チーム、コーチからの問い合わせはクルーで対応
 - ②TOは仲間である。高圧的に対応せずリスペクトして連携（地元高校生が担当）
 - ③最終的な判断は、審判が行わなければならない

【講義②】

講師：有澤 重行氏（本部）

2021 新潟 IH のプレゲームカンファレンス（PGC）について

○地元審判員との共有事項

- ・自身が IH を成功させるという主体的な取り組みで県外審判を迎える
- ・高校生のスピードにマッチした走力（スプリント・持久力）が最低限求められる
- ・正しい判定の裏付けはメカニクスや IOT（インディビジュアルオフィシエーティングテクニック）のベーシックから

○PGC について

- ・普段行っている PGC に加え
 - ①処置ミスゼロに向けて
 - ②トラベリング
 - ③ショットの見極め（Foot, Up, Land）
 - ④Respect For the Game（含インテグリティ）

○OTO クルーとの連携

- ・例年実施するような研修ができていない
（男子 IH では日を追うごとに成長してくれた）
- ・ゲーム 40 分前に審判控室付近でのミーティングを実施

○その他

- ・急遽、ダブルで担当してもらう可能性がある。

【担当ゲーム】

8月10日（火）

女子1回戦 草津東（滋賀）ー埼玉栄（埼玉）

CC：阿部 ちひろ氏（岩手） U1：飯塚 貴行 U2：佐々木 貴史（新潟）

※IRなしのため、クルーによる振り返りミーティングをしました

（ミーティング内容）

- ・PGC で確認した部分がよく生かされていていいクルーワークだった。
- ・オールコート of トラップ DEF に対し、C が残ることでクルーとしていい判定が多かった。
- ・2Q の End Of Quarter（EOQ）でファウルコールがあった際、クロックは 0.0 を示していた。タイマーとブザーは連動しているのでブザーよりも先に笛があった。フリースロー（FT）を打って終わりにしたが、ファウルコール後にクルーで確認して、0.1 秒に戻してからリバウンダー有りて FT にした方がよかったのではないかと。こういった処置であったのか、明確に示す必要があった。（C がファウルコール、クロックはオポジットの T）

【担当ゲーム】

8月11日（水）

女子2回戦 熊本商業ー広島皆実

CC：佐藤 陽子氏（北海道） U1：飯塚 貴行 U2：河辺 真由美氏（富山）

IR：関口 久視氏（新潟）

（ミーティング内容）

- ・3人ともそれぞれの良さが目立っていてよかった。
- ・ゲームにマッチしていた判定が多かった。
- ・決断力、笛にした後の立ち振る舞いがよかった。
- ・ゲームが進んでいく中で、3人ともボール中心になり、プライマリーの意識が薄れていた。意識しているときには、いい判定ができていたので、改めて確認してほしい。

8. 大会を通して

今回、コロナウイルス感染拡大の難しい状況の中、大会に参加することができたことをうれしく思います。貴重な経験をするとともに多くのことを学ぶことが出来ました。このような機会を与えてくださった県協会、県審判グループの皆様には感謝申し上げます。

コロナウイルスの感染拡大が続き、各都道府県の審判員との交流が難しい状況でしたが、事前にPGCを実施することで2ゲームともクルーで連携してゲームを進行することができたと思います。あらためてPGCの重要性を確認することができました。

また、大会期間を通じて、前回初めてインターハイに派遣していただいたときから自分自身の成長を感じられた部分、まだまだ力の足りない部分など多くの気づきを得ることができました。さらに努力が必要だと刺激を受けることが出来ました。各都道府県審判員の皆さま、素晴らしい環境を準備してくださった新潟県高体連、新潟県バスケットボール協会の皆さまに厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。